

2018 年度

# 日本医学会年次報告

2019 年 2 月 22 日

日本医学会

# 目 次

1. 日本医学会総会	1
1) 「第30回日本医学会総会2019中部」の準備	1
2. 日本医学会幹事会	4
3. 日本医学会定例評議員会	5
4. 日本医学会シンポジウム	5
1) 日本医学会シンポジウム	5
2) 日本医学会シンポジウム企画委員会	6
3) 日本医学会シンポジウム記録(DVD)	6
4) 日本医学会シンポジウムの講演要旨	7
5. 日本医学会公開フォーラム	7
1) 日本医学会公開フォーラム	7
2) 日本医学会公開フォーラム企画委員会	7
3) 日本医学会公開フォーラム記録(DVD)	8
6. 日本医学会医学用語管理委員会	8
7. 遺伝学用語改訂に関するワーキンググループ	9
8. 日本医学会分科会用語委員会	10
9. 日本医師会医学賞・医学研究奨励賞選考委員会	10
10. 日本医学会加盟検討委員会	12
11. 日本医学会「遺伝子・健康・社会」検討委員会	12
12. 「母体血を用いた出生前遺伝学的検査」施設認定・登録部会	13
13. 日本医学会利益相反委員会	13
14. 日本医学雑誌編集者組織委員会	14
15. 日本医学雑誌編集者会議(JAMJE)ならびに日本医学会分科会利益相反会議 合同シンポジウム	15
16. 研究倫理教育研修会	16
17. 移植関係学会合同委員会	16
18. 日本医学会だより	17
19. 情報発信	17
20. 会議等の開催数	17
21. その他	19

## 綴じ込み

日本医学会だより No.59	20
日本医学会だより No.60	22
ゲノム編集技術を用いたヒト受精卵による児の誕生に関する報道について	24
「母体血を用いた新しい出生前遺伝学的検査(NIPT)」指針の遵守についての依頼	25



# 1. 日本医学会総会

## 1) 「第30回日本医学会総会2019中部」の準備

「医学と医療の深化と広がり ～健康長寿社会の実現をめざして～」をメインテーマとした「第30回日本医学会総会2019中部」の準備としては、準備委員会のもと、各委員会を招集し、討議を重ね、2018年12月現在、下記の概要を決定した。

### (1) 学術集会関係

- ・会場は、名古屋国際会議場、名古屋学院大学白鳥学舎、ウインクあいちの3施設を利用する。
- ・4つの柱「医学と医療の新展開」「社会とともに生きる医療」「医療人の教育と生き方」「グローバル化する日本の医療」に沿って26のテーマを選定し、それぞれのテーマに合わせた90セッションを策定した。
- ・開会講演／閉会講演、記念講演／特別講演の演者を以下のとおり決定した。

#### <1日目>

- ①開会講演「健康長寿社会を支えるトランスフォーマティブエレクトロニクス」  
天野 浩 先生（名古屋大学教授）
- ②会頭講演「医学・医療と生老病死：不変の精神と技術革新」  
齋藤 英彦 先生（第30回日本医学会総会2019中部会頭）
- ③日本医師会長講演「日本医師会の医療政策 ～健康な社会を作ろう～」  
横倉 義武 先生（日本医師会長）
- ④日本医学会長講演「社会と共に進化する医学」  
門田 守人 先生（日本医学会長）

#### <2日目>

- ⑤記念講演「やれる理由こそが着想を生む ～はやぶさ式思考法～」  
川口 淳一郎 先生（宇宙航空研究開発機構（JAXA）教授）
- ⑥記念講演「野生の思考と未来の人材育成 ～ゴリラに学ぶ～」  
山極 壽一 先生（京都大学総長）
- ⑦特別講演「AMEDのミッション：グローバルデータシェアリング」

末松 誠 先生（日本医療研究開発機構理事長）

- ⑧特別講演「地域包括ケア時代における医療専門職育成 ～専門職としての自律と多職種連携～」

福井 トシ子 先生（日本看護協会会長）

- ⑨特別講演「健康長寿の延伸に向けて ～口腔の健康と全身の健康～」

堀 憲郎 先生（日本歯科医師会長）

- ⑩特別講演「ウエルネス 8020 ～フレイル・ロコモ・認知症対策～」

内堀 典保 先生（愛知県歯科医師会長）

- ⑪特別講演「地域包括ケアにおける薬局薬剤師の役割 – チームで守る安全・安心な薬物治療 –」

山本 信夫 先生（日本薬剤師会長）

- ⑫特別講演「病院薬剤師の業務の変遷 – 調剤室から病棟へ、そして地域医療連携へ –」

木平 健治 先生（日本病院薬剤師会長）

< 3日目 >

- ⑬記念講演「過去と現在を直視し、今後の震災に備える」

福和 伸夫 先生（名古屋大学減災連携研究センター長／教授）

- ⑭記念講演「がんを免疫力で治す」

本庶 佑 先生（京都大学高等研究院副院長／特別教授）

- ⑮閉会講演「東海道新幹線から超電導リニアへ」

葛西 敬之 先生（東海旅客鉄道株式会社取締役名誉会長）

- ⑯閉会講演「iPS細胞研究の現状と医療応用に向けた取り組み」

山中 伸弥 先生（京都大学 iPS 細胞研究所所長／教授）

- ・日本医師会と連携して、認定産業医、健康スポーツ医、かかりつけ医などの研修単位取得を可能とした。また、専門医共通講習会の開催を決定した。
- ・各分科会にパネル展示制作を依頼した。
- ・健康社会宣言 2019 中部の素案を作成した。
- ・日本医学会総会奨励賞の受賞者 12 名を決定した。受賞者には本総会期間中

に受賞講演をしていただき、審査の上4領域（生理系・病理系，社会医学系，内科系，外科系）それぞれ1名の最優秀奨励賞を決定する。本総会最終日の受賞式にて結果を発表，表彰する。

## (2)展示関係

- ・ 学術集会参加者向けの学術展示を名古屋国際会議場とポートメッセなごやで開催する。学術集会と連携しかつそれを補完する展示を基本方針として，最新の医学と医療に関する機械，器具，サービス，情報などを集め，展示する準備を進めている。
- ・ 一般市民向けの展示「健康未来 EXPO2019」をポートメッセなごやで開催する。学術講演の4つの柱に合わせた4つのテーマ「きぼうのまち」「あたたかいまち」「まなびのまち」「ひろがるまち」に沿った展示と，「運動・スポーツひろば」「安全なくらしのひろば」での体験プログラムの準備を進めている。また，11月には「健康未来 EXPO2019」のホームページを開設した。
- ・ 医学史展を名古屋大学博物館で開催する。展示パネルの配置や展示物に関する検討，解説付き年表の編集作業を行った。
- ・ 幼児～中学生を対象とした「心に残る医療絵画コンクール」を企画した。631点の絵画が応募され，審査を進めている。
- ・ プレイベント企画として以下を開催した。
  - ① 6月10日（日）三重大学医学部・三重県医師会「市民公開健康講座」
  - ② 6月30日（土）福井大学医学部・福井県医師会・日本肝臓学会「ハピお医者さんチャレンジ」
  - ③ 7月15日（日）信州大学医学部・長野県医師会・長野県・長野県立病院機構「長野県市民公開講座」
  - ④ 9月1日（土）～2日（日）中日新聞社・名古屋大学医学部「第6回中日健康フェア2018」
  - ⑤ 10月13日（土）富山大学医学部・富山県医師会「第30回日本医学会総会2019 中部プレイベント in 富山 市民公開講座」
  - ⑥ 10月14日（日）岐阜大学医学部・岐阜県医師会「岐阜大学医学市民講座」

- ⑦ 10月28日（日）北信がんプロ・金沢大学医学展実行委員会「平成30年度第1回北信がんプロ市民公開講座 in 金沢」
- ⑧ 12月8日（土）浜松医科大学・静岡県医師会「第40回浜松医科大学公開講座」
- ⑨ 1月22日（火）愛知県医師会・名古屋大学医学部・名古屋市立大学医学部・藤田医科大学医学部・愛知医科大学医学部「第30回日本医学会総会2019中部プレイベント in なごや 市民公開講座」（予定）

(3)その他

- ・学術集会参加者の交流を目的として、ソーシャルイベント（卓球，将棋，ゴルフ，囲碁，ラグビー，テニス，柔道，アマチュア無線）の開催を計画した。

(4)事務局

「第30回日本医学会総会2019中部」事務局

〒466-8550 愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65 名古屋大学医系研究棟3号館3階

Tel：052-744-2515（直通）

E-mail：isoukai-jim@med.nagoya-u.ac.jp

事務局長 青山 正晴

## 2. 日本医学会幹事会

第2回日本医学会幹事会を、平成31年2月22日（金）に開催。主な議題は、「2018年度日本医学会年次報告」、「2019年度日本医学会事業計画」、「日本医学会新規加盟学会」等である。

### 3. 日本医学会定例評議員会

第 86 回日本医学会定例評議員会を,平成 31 年 2 月 22 日(金)に開催. 主な議題は,「2018 年度日本医学会年次報告」,「2019 年度日本医学会事業計画」,「日本医学会新規加盟学会」等である.

### 4. 日本医学会シンポジウム

#### 1) 日本医学会シンポジウム

次のとおり 3 回開催した.

##### ・第 153 回日本医学会シンポジウム

テ ー マ:身近になったゲノム医療～研究から診療への課題～

開 催 日:平成 30 年 6 月 2 日(土)

開催場所:日本医師会館 大講堂

組織委員:福嶋義光(信州大学名誉教授, 特任教授)

小西郁生(国立病院機構 京都医療センター院長)

参加者数:240 名

##### ・日本医学会公開シンポジウム

テ ー マ:適切な遺伝学用語のあり方

開 催 日:平成 30 年 12 月 11 日(火)

開催場所:日本医師会館 大講堂

組織委員:辻 省次(国際医療福祉大学大学院・医学部教授, ゲノム医学研究所長)

参加者数:131 名

##### ・第 154 回日本医学会シンポジウム

テ ー マ:AI と医療の現状と課題

開 催 日:平成 31 年 1 月 16 日(水)

開催場所：日本医師会館 大講堂

組織委員：大江和彦（東京大学大学院医学系研究科教授・医療情報学）

竹内 勤（慶應義塾大学常任理事／医学部教授・リウマチ・膠原病  
内科学）

参加者数：427 名

## 2) 日本医学会シンポジウム企画委員会

委員は間野博行（国立がん研究センター研究所所長），北川昌伸（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科教授・包括病理学），大西 真（国立国際医療研究センター病院長），吉野一郎（千葉大学大学院医学研究院教授・呼吸器病態外科学），橋本英樹（東京大学大学院医学系研究科教授・保健社会行動学）の5名で構成されており，シンポジウムの基本方針，テーマおよび組織委員について企画構成を行っている．今年度は次のとおり開催した．

### ・第1回日本医学会シンポジウム企画委員会（平成30年5月11日）

第154回シンポジウムのテーマ決定と第155回シンポジウムのテーマ案の検討がなされた．日本医学会分科会にテーマ案を募集したところ，34学会から57案が寄せられ，これも併せて検討された．

第154回シンポジウムテーマ：AIと医療の現状と課題

### ・第2回日本医学会シンポジウム企画委員会（平成30年10月10日）

第155回シンポジウムのテーマ決定について検討がなされた．

第155回シンポジウムテーマ：超高齢社会における医療の取り組み

－ロコモ・フレイル・サルコペニア

## 3) 日本医学会シンポジウム記録（DVD）

「第153回日本医学会シンポジウム」，「日本医学会公開シンポジウム」「第154回日本医学会シンポジウム」の全容を，DVDに制作し，関係各位に謹呈した．

また，DVDの内容は，日本医学会ホームページの「Onlineライブラリー」の項で映像配信した（URL:<http://jams.med.or.jp/>）．

#### 4) 日本医学会シンポジウムの講演要旨

講演要旨は、日本医師会雑誌に次のとおり掲載した。第153回日本医学会シンポジウム「身近になったゲノム医療～研究から診療への課題～」：第147巻第8号（平成30年11月号）、公開シンポジウム「適切な遺伝学用語のあり方」、第154回シンポジウム「AIと医療の現状と課題」：第147巻第12号（平成31年3月号）

## 5. 日本医学会公開フォーラム

### 1) 日本医学会公開フォーラム

次のとおり2回開催した。

#### ・第24回日本医学会公開フォーラム

テ ー マ：認知症の予防とケア

開 催 日：平成30年7月21日（土）

開 催 場 所：日本医師会館 大講堂

組織委員長：秋山治彦（横浜市立脳卒中・神経脊椎センター臨床研究部部長）

参加者数：328名

#### ・日本医師会・日本医学会合同公開フォーラム

テ ー マ：HPVワクチンについて考える

開 催 日：平成30年10月13日（土）

開 催 場 所：日本医師会館 大講堂

組 織 委 員：藤井知行（東京大学大学院医学系研究科産婦人科学教授）

高橋孝雄（慶應義塾大学医学部小児科教授）

参加者数：291名

### 2) 日本医学会公開フォーラム企画委員会

日本医学会公開フォーラム企画委員会（委員：跡見 裕，池田康夫，南 砂，羽鳥 裕）は、日本医学会公開フォーラムの基本方針，テーマおよび組織委員につ

いて、企画構成を行う。今年度は、次のとおり2回開催した。

- ・第2回日本医学会公開フォーラム企画委員会（平成30年5月11日）

企画委員会で日本医師会・日本医学会合同公開フォーラムを下記のとおり決定した。

テーマ：HPV ワクチンについて考える

組織委員：藤井知行（東京大学大学院医学系研究科産婦人科学教授）

高橋孝雄（慶應義塾大学医学部小児科教授）

- ・第3回日本医学会公開フォーラム企画委員会（平成30年10月10日）

企画委員会で第25回日本医学会公開フォーラムを下記のとおり決定した。

テーマ：子どものこころのケア

組織委員：五十嵐 隆（国立成育医療研究センター理事長）

高橋孝雄（慶應義塾大学医学部小児科教授）

### 3) 日本医学会公開フォーラム記録（DVD）

「第24回日本医学会公開フォーラム：認知症の予防とケア」, 「日本医師会・日本医学会合同公開フォーラム：HPV ワクチンについて考える」のフォーラムの全容を、DVDに制作し、関係各位に謹呈した。

また、DVDの内容は、日本医学会ホームページの「Online ライブラリー」の項で映像配信した（URL:<http://jams.med.or.jp/>）。

## 6. 日本医学会医学用語管理委員会

日本医学会医学用語管理委員会は、委員長：脊山洋右（医学中央雑誌刊行会理事長），副委員長：大江和彦（東京大学大学院教授），委員：小野木雄三（国際医療福祉大学三田病院教授），河原和夫（東京医科歯科大学大学院教授），坂井建雄（順天堂大学大学院教授），清水英佑（中央労働災害防止協会 労働衛生調査分析センター所長），田中牧郎（明治大学国際日本学部教授），辻 省次（東京大学大学院特任教授），森内浩

幸（長崎大学大学院教授），山口俊晴（癌研有明病院病院長）の10名により構成されている。

本年度は以下のように3回開催した。第20回医学用語管理委員会（平成30年8月8日），第21回医学用語管理委員会（平成30年10月2日開催），第22回医学用語管理委員会（平成30年12月18日開催）。

## 7. 遺伝学用語改訂に関するワーキンググループ

平成29年9月6日に日本遺伝学会が発表した優性遺伝，劣性遺伝などを含む遺伝学用語の改訂の提案については，マスコミで広く取り上げられた。遺伝学に関する用語は，医学の広い分野に関係し，医学教育においても重要な位置を占める。また，患者や家族も含め，社会的な影響も強いことから，日本医学会では医学用語管理委員会の下にワーキンググループを設け，検討を行うことになった。委員は辻 省次（座長，日本神経学会），柏井 聡（日本眼科学会），久具宏司（日本産科婦人科学会），櫻井晃洋（日本人類遺伝学会），戸田達史（日本神経学会），小崎健次郎（日本先天異常学会），梶屋啓志（日本遺伝学会），森内浩幸（日本小児科学会），各委員。

第4回を平成30年4月6日（金）に，第5回を平成30年8月23日（金）に開催した。本年度中に第6回を開催予定である。

ワーキンググループが中心となり，平成30年12月11日（火）13：00～17：00，日本医師会大講堂にて「適切な遺伝学用語のあり方」をテーマに日本医学会公開シンポジウムを開催した。幅広い分野の方を演者に招き，ディスカッションを行った。ワーキンググループではこのディスカッションをもとにさらなる議論を深めたい，としている。

## 8. 日本医学会分科会用語委員会

平成 30 年度日本医学会分科会用語委員会を平成 30 年 12 月 18 日（火）に開催した。主な議題は、1. ICD-11 の我が国への適用に向けて、2. 日本医学会医学用語辞典 WEB 版のメンテナンス報告、3. 遺伝学用語改訂に関するワーキンググループからの報告、4. 「奇形」を含む医学用語の置き換え提案：日本小児科学会からの経過報告、5. AI 関連技術の活用で知る医学用語の現状課題、6. 学術分野における著作権を取り巻くトレンド、質疑応答である。

## 9. 日本医師会医学賞・医学研究奨励賞選考委員会

医学賞・医学研究奨励賞の選考作業は、日本医学会が日本医師会より委任されているもので、本年度は平成 30 年 8 月 31 日（金）に開催された。

委員に加え、本年度は、特例委員として、仲嶋一範（慶應義塾大学医学部解剖学教授）、森井英一（大阪大学大学院医学系研究科病態病理学教授）、武林 亨（慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学教授）、辻 省次（国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科神経内科学教授）、南学正臣（東京大学大学院医学系研究科腎臓・内分泌内科学教授）、高木康志（徳島大学大学院医歯薬学研究部脳神経外科学教授）、秋山英雄（群馬大学医学部眼科学教授）の 7 氏が加わった。

結果は、次のとおり医学賞 3 名、医学研究奨励賞 15 名が選考され、平成 30 年 11 月 1 日の日本医師会設立記念医学大会において表彰された。なお、医学賞受賞者の論文を日本医師会雑誌（第 147 巻第 9 号）に掲載した。

[平成 30 年度日本医師会医学賞]

・脳機能を支えるシナプスの機能発達、可塑性および伝達修飾の研究

狩野方伸／東大・神経生理学

・大規模コホート研究の推進と日本人のエビデンスに基づいたがん予防法の提言

津金昌一郎／国立がん研究センター社会と健康研究センター

- ・緩徐進行1型糖尿病（SPIDDM）の成因，診断，および発症・進展阻止治療に関する研究

小林哲郎／冲中記念成人病研究所

[平成30年度日本医師会医学研究奨励賞]

- ・慢性炎症における肺線維化機構の解明と病態制御基盤の構築

平原 潔／千葉大・免疫発生学

- ・臓器間連携を介した新規心臓恒常性維持機構の解明による新規診断・治療法の開発

藤生克仁／東大・先進循環器病学

- ・健康長寿を目指したアンドロゲン受容体を介する遺伝子発現制御機構の統合的同定解析

高山賢一／東京都健康長寿医療センター研究所

- ・ヒト新生児が有する脳傷害後のニューロン移動メカニズムの解明と再生促進の実現化

神農英雄／名市大・新生児・小児医学

- ・大腸癌転移における炎症性サイトカインの機能解析

谷口浩二／慶大・微生物学・免疫学

- ・シングルセルRNAseqを用いた角膜移植における制御性T細胞の可塑性の解析

猪俣武範／順天堂大・眼科学

- ・行動科学理論に基づく情報通信技術を活用した健康格差是正手法の開発と効果検証

近藤尚己／東大・健康教育・社会学

- ・災害医療情報の国内・国際標準化

久保達彦／産業医大産業生態科学研究所・環境疫学

- ・光曝露の健康影響：大規模前向きコホート研究による検証

大林賢史／奈良県立医大・疫学・予防医学

- ・細胞死からみたアレルギー性気道炎症の新しい評価法の確立  
植木重治／秋田大・総合診療・検査診断学
- ・治療難治性癌に対する脂質メディエーター標的治療の可能性の探索  
永橋昌幸／新潟大・消化器外科学
- ・「希少がん」骨軟部腫瘍のがんプレジジョンメディスンデータベースに基づいた新規治療法開発  
末原義之／順天堂大・整形外科
- ・嗅上皮障害後の修復過程におけるインスリンの役割の解明  
菊田 周／東大・耳鼻咽喉科学
- ・初期胚発生の遺伝子発現機構を介した胚性の不妊症の病態解明と再生医療の開発  
山田満稔／慶大・産婦人科学
- ・皮膚線維化疾患における yRNA の関与の研究  
神人正寿／和歌山医大・皮膚科学

## 10 . 日本医学会加盟検討委員会

日本医学会加盟検討委員会は、13名の委員により構成。

平成30年度第1回日本医学会加盟検討委員会は平成30年12月20日（木）に開催した。今年度の加盟申請の29学会についての審査を慎重に行い、その結果を日本医学会協議会に提出した。因みにこの審査は、日本医学会加盟検討委員会報告（平成23年7月）に示された新たな審査基準に基づいて行われている。

## 11 . 日本医学会「遺伝子・健康・社会」検討委員会

平成23年度に発足した委員会で、日本医学会として遺伝情報の取り扱い、検査の質保証、提供体制などに取り組むことを目的としている。委員長：福嶋義光（信州大

学医学部特任教授), 委員: 五十嵐 隆 (国立成育医療研究センター理事長), 小西郁生 (国立病院機構 京都医療センター院長), 高田史男 (北里大学大学院医療系研究科臨床遺伝医学教授), 中村清吾 (昭和大学医学部乳腺外科教授 / 大学病院ブレストセンター診療科長), 宮地勇人 (東海大学医学部基盤診療医学系臨床検査学教授) の 6 名で構成されている。第 17 回委員会を平成 30 年 10 月 5 日 (金) に開催, 第 18 回委員会を平成 31 年 3 月 7 日 (木) に予定している。

## 12. 「母体血を用いた出生前遺伝学的検査」施設認定・登録部会

「遺伝子・健康・社会」検討委員会の部会として平成 25 年 3 月に発足し, 主に施設の認定, 登録を行っている。久具宏司 (部会長: 東京都立墨東病院産婦人科部長), 澤 倫太郎 (日本医科大学女性生殖発達病態学講師), 榎原秀也 (横浜市立大学附属市民総合医療センター婦人科診療教授・診療部長), 川目 裕 (東北メディカル・メガバンク機構教授), 高田史男 (北里大学大学院医療系研究科臨床遺伝医学教授), 丸山英二 (慶應義塾大学大学院マネジメント研究科特任教授) の 6 名により構成されている。

## 13. 日本医学会利益相反委員会

平成 22 年度に発足した「日本医学会臨床部会利益相反委員会」を, 平成 24 年度に「日本医学会利益相反委員会」に改称した。委員長: 曾根三郎 (徳島大学名誉教授 / 徳島市病院事業管理者), 委員: 植木浩二郎 (国立国際医療研究センター糖尿病研究センター長), 土岐祐一郎 (大阪大学大学院医学系研究科消化器外科学教授), 南学正臣 (東京大学大学院医学系研究科教授), 前川 平 (京都府保健環境研究所所長), 村山敏典 (金沢大学附属病院臨床開発部先端医療開発センター長), 浅井文和 (日本医学ジャーナリスト協会幹事 / 元朝日新聞社編集委員), 小笠原彩子 (南北法律事務所

弁護士) の8名で構成.

本委員会と日本医学会連合研究倫理委員会と日本医学会連合診療ガイドライン検討委員会と日本医学雑誌編集者組織委員会との第1回4委員会合同委員会を, 平成30年5月8日(火)に開催した. 主な議題は, ①各委員長からの挨拶と取り組み状況, ②第4回研究倫理教育研修会についてであり, その後, 第4回研究倫理教育研修会を開催した.

平成31年3月26日(火)に第18回委員会を開催予定.

## 14. 日本医学雑誌編集者組織委員会

日本医学雑誌編集者組織委員会は, 平成20年に発足した. 委員構成は, 委員長: 北村 聖 (国際医療福祉大学医学部長・教授), 委員: 木内貴弘 (東京大学医学部附属病院大学病院医療情報ネットワーク研究センター教授), 北川正路 (東京慈恵会医科大学学術情報センター課長補佐), 津谷喜一郎 (東京有明医療大学保健医療学部特任教授), 中山健夫 (京都大学大学院医学研究科健康情報学教授), 根岸正光 (国立情報学研究所名誉教授), 三沢一成 (特定非営利活動法人 医学中央雑誌刊行会専務理事), 湯浅保仁 (東京医科歯科大学副学長), 吉岡俊正 (東京女子医科大学理事長・学長) の9名である.

本委員会と日本医学会連合研究倫理委員会と日本医学会連合診療ガイドライン検討委員会と日本医学会利益相反委員会との第1回4委員会合同委員会を, 平成30年5月8日(火)に開催した. 主な議題は, ①各委員長からの挨拶と取り組み状況, ②第4回研究倫理教育研修会についてであり, その後, 第4回研究倫理教育研修会を開催した.

第22回委員会を, 平成30年7月31日(火)に開催した. 主な議題は, ① APAME (アジア太平洋医学雑誌編集者会議) 2018 (インドネシア・ボゴール) 報告, ②日本医学会129分科会宛アンケート案 (日本医学会利益相反委員会と共同作成), ③『日本医学会 医学雑誌編集ガイドライン』の更新, ④第9回日本医学雑誌編集者

会議（JAMJE）総会／第6回日本医学会分科会利益相反会議総会／第2回日本医学会分科会利益相反会議ならびに日本医学雑誌編集者会議（JAMJE）合同シンポジウムの開催，⑤日本医学会利益相反委員会活動報告についてであった。

## 15. 日本医学雑誌編集者会議（JAMJE）ならびに日本医学会分科会利益相反会議合同シンポジウム

第2回日本医学雑誌編集者会議（JAMJE）ならびに日本医学会分科会利益相反会議合同シンポジウムを「医学研究公表のためのコンプライアンス」をテーマとして，平成30年11月6日（火）に開催した。詳細は日本医学会ホームページに掲載したので，参照いただきたい。

当日は総会に引き続き，北村 聖（日本医学雑誌編集者組織委員会委員長），曾根三郎（日本医学会利益相反委員会委員長）の司会の下，下記のプログラムでシンポジウムが開催された。

- ・医学雑誌編集にかかる分科会アンケート結果報告／北川正路（東京慈恵会医科大学学術情報センター課長補佐）
- ・『日本医学会 医学雑誌編集ガイドライン』の改訂／津谷喜一郎（東京有明医療大学保健医療学部特任教授）
- ・日本医学会129分科会における医学研究に係る利益相反（COI）対応の現状：アンケート調査結果報告／土岐祐一郎（大阪大学大学院消化器外科学教授）
- ・医学系研究機関における組織COI管理ガイダンス：臨床研究とInstitutional COI／苛原 稔（全国医学部長病院長会議臨床研究・利益相反検討委員会委員長／徳島大学医学部産科婦人科学教授）
- ・JAMS COI管理ガイドライン：ICMJE Recommendationsへの整合性化／曾根三郎（徳島大学名誉教授／徳島市病院事業管理者）
- ・Issues for Survival of Journal of Korean Medical Science／Sung - Tae Hong（Journal of Korean Medical Science（JKMS）編集長）

## 16. 研究倫理教育研修会

日本医学会分科会全体で、研究倫理のあり方、研究倫理問題の予防と発生時の対応について情報を共有し、各分科会会員の教育啓発に活かすことを目的として、日本医学会連合研究倫理委員会、日本医学会連合診療ガイドライン検討委員会、日本医学雑誌編集者組織委員会、日本医学会利益相反委員会合同で、第4回研究倫理教育研修会を、「医学研究発表の質と信頼性の確立」をテーマとして、平成30年5月8日（火）に開催した。詳細は、日本医学会ホームページに掲載したので、参照いただきたい。

シンポジウムは、市川家國（日本医学会連合研究倫理委員会委員長）、北村 聖（日本医学雑誌編集者組織委員会委員長）、曾根三郎（日本医学会利益相反委員会委員長）の座長の下、下記のプログラムで開催された。

- ・医学研究・発表における諸問題：変化に対応するには／湯浅保仁（東京医科歯科大学副学長／日本医学雑誌編集者組織委員会委員）
- ・雑誌編集のガイドライン作り－編集者の権利と責任について－／北村 聖（国際医療福祉大学医学部長・教授）
- ・臨床研究法の施行で産学連携活動はどのように変わるか？／藤原康弘（国立がん研究センター企画戦略局長／中央病院副院長）
- ・論文発表を前提とした臨床研究と COI 管理／曾根三郎（徳島大学名誉教授／徳島市病院事業管理者）
- ・研究発表に当たっての倫理ガイドラインの共通化に向けて／仁尾正記（東北大学大学院医学系研究科小児外科学教授／日本医学会連合研究倫理委員会委員）
- ・国内外で始まった研究不正審査標準化への動き／市川家國（信州大学特任教授）

## 17. 移植関係学会合同委員会

平成4年4月に発足した移植関係学会合同委員会は厚生労働省、日本医師会、関係学会で構成されており、世話人を日本医学会長が務めている。

## 18. 日本医学会だより

平成元（1989）年度より発行している日本医学会だより（JAMS News）は、本年度、5月にNo.59を、10月にNo.60を発行した（綴じ込みの「日本医学会だより」を参照）。なお、No.58からはオンライン版のみの発行となっている。

## 19. 情報発信

平成12年10月に日本医学会のホームページを開設した。日本医学会分科会の協力を得て、本会のホームページ（URL:<http://jams.med.or.jp/>）と分科会ホームページをリンクしている。

平成30年11月30日（金）に、横倉義武日本医師会長と門田守人日本医学会長の連名で「ゲノム編集技術を用いたヒト受精卵による児の誕生に関する報道について」を発表（綴じ込み参照）。

平成30年12月25日（火）に、門田守人日本医学会長が「母体血を用いた新しい出生前遺伝学的検査（NIPT）」指針の遵守について依頼（綴じ込み参照）。

平成31年2月22日（金）に「第30回日本医学会総会2019中部」の記者発表を開催予定である。

## 20. 会議等の開催数

日本医学会協議会（会長，副会長）	11回
日本医学会幹事会	1回
日本医学会定例評議員会	1回
日本医学会総会あり方委員会	0回
日本医学会シンポジウム	3回

日本医学会シンポジウム打ち合わせ会	3回
日本医学会公開フォーラム	1回
日本医学会公開フォーラム打ち合わせ会	1回
日本医師会・日本医学会合同公開フォーラム	1回
日本医師会・日本医学会合同公開フォーラム打ち合わせ会	1回
日本医学会シンポジウム企画委員会	2回
日本医学会シンポジウム組織委員会（メール開催）	2回
日本医学会公開フォーラム企画委員会	2回
日本医学会公開フォーラム組織委員会（メール開催）	2回
日本医学会医学用語管理委員会	3回
遺伝学用語改訂に関するワーキンググループ	3回
日本医学会分科会用語委員会	1回
医学用語打ち合わせ会	3回
日本医師会医学賞・医学研究奨励賞選考委員会	1回
日本医学会加盟検討委員会	1回
日本医学会「遺伝子・健康・社会」検討委員会	2回
日本医学会「遺伝子・健康・社会」検討委員会・打ち合わせ会	3回
「母体血を用いた出生前遺伝学的検査」施設認定・登録部会	3回
日本医学会利益相反委員会	1回
日本医学会利益相反委員会打ち合わせ会	1回
日本医学雑誌編集者組織委員会	1回
日本医学雑誌編集者組織委員会打ち合わせ会	2回
日本医学雑誌編集者会議（JAMJE）ならびに日本医学会分科会	
利益相反会議合同シンポジウム	1回
4委員会合同委員会	1回
4委員会委員長打ち合わせ会	1回
研究倫理教育研修会	1回
移植関係学会合同委員会	0回

## 21. その他

- 1) 「日本医学会分科会一覧」を平成30年8月に作成，関係各方面に配付した.
- 2) 「平成31年日本医学会分科会総会一覧」(オンライン版)を平成30年12月に作成した.
- 3) 「日本医師会年次報告書－平成30年度－」および「日本医師会会務報告」に，日本医学会関係の記事を掲載する予定.

# 日本医学会だより

JAMS News

2018年5月 No. 59  
日本医学会

## ◆日本医学会協議会

日本医学会会長・副会長と日本医師会（日本医学会担当）役員で毎月開催している役員会議である。

## ◆第85回日本医学会定例評議員会

平成30年2月28日に開催した。平成29年度年次報告、平成30年度事業計画の報告の他、第30回日本医学会総会2019中部の開催準備状況、第31回日本医学会総会の会頭、会場、会期の報告（2023年4月21日～23日、東京国際フォーラム、会頭 春日雅人）等の議題があった。平成29年度新規加盟学会は、日本再生医療学会が承認され、129学会となった。

## ◆日本医学会加盟検討委員会

平成29年度第1回日本医学会加盟検討委員会を、平成29年12月6日に開催した。加盟申請の27学会についての審査を慎重に行い、その結果を平成30年1月12日の日本医学会協議会で門田会長に報告した。

## ◆第24回日本医学会公開フォーラム

「認知症の予防とケア」をテーマに、平成30年7月21日（土）13:00～16:05、日本医師会館大講堂において開催予定（組織委員長：秋山治彦・横浜市立脳卒中・神経脊椎センター臨床研究部部長）。市民を対象とした公開フォーラムである。参加費無料。終了後、ホームページにて映像配信する。

申し込み・詳細は日本医学会ホームページご

参照。

## ◆第153回日本医学会シンポジウム

「身近になったゲノム医療～研究から診療への課題～」をテーマに、6月2日（土）13:00～17:05、日本医師会館大講堂で開催予定（組織委員：福嶋義光、小西郁生）。参加費無料。終了後、ホームページにて映像配信する。

申し込み・詳細は日本医学会ホームページご参照。

## ◆日本医学会医学用語管理委員会

本年度は10月と12月の2回開催した。主な議題は「診療報酬制度」英語改定依頼、「日本医学会医学用語辞典」への提言に対する回答について、「優性」「劣性」の言い換えについて、日本ディスファーマシー患者会からの要望対応について「medical fee payment」の日本語訳について、等である。

また、平成29年9月に日本遺伝学会が発表した優性遺伝、劣性遺伝などの遺伝学用語の改訂提案に関してはマスコミで大きく取り上げられ、分科会の多数の学会に関連する用語であり、社会的な影響が大きいことから、本委員会の下に関係学会と共に「遺伝学用語改訂に関するワーキンググループ」を作り、検討を始めた。12月7日に第1回を開催し、現在までに4回を開催している。

平成29年12月22日に平成29年度分科会用語委員会を開催した。主な議題は世界と日本におけるICDの動向について、用語の言い換え

のプロセスについて、医学用語事典 WEB 版の使い方、遺伝学用語改訂に関するワーキンググループについて、「奇形」を含む医学用語の置き換え提案、分科会アンケートのまとめについてである。

### ◆「遺伝子・健康・社会」検討委員会

第 16 回委員会を、平成 29 年 8 月 29 日に開催した。委員会宛に提出された質問書について、日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度機構からの報告、「医療における遺伝学的検査・診断に関するガイドライン」について、ゲノム医療実現推進に向けた取り組み等についての議論が行われた。

### ◆日本医学会利益相反委員会

第 16 回委員会を、平成 29 年 10 月 17 日に開催した。主な議題は、① COI マネージメントの経緯と平成 29 年度の取り組み、②乳がん臨床試験における利益相反に関する要望書について、③日本医学雑誌編集者組織委員会活動報告等であった。

第 17 回委員会を、平成 30 年 3 月 29 日に開催した。① COI マネージメントの経緯と平成 30 年度の取り組み、②「関わりのある企業等の COI 開示にかかる留意点」、③米国医学会 (JCO) の COI 管理の動向、④臨床研究法施行にかかる利益相反管理の概要、⑤日本医学雑誌編集者組織委員会活動報告等について意見交換を行った。

### ◆日本医学雑誌編集者組織委員会

第 19 回委員会を、平成 29 年 5 月 9 日に開催した。主な議題は、①「日本医学会 医学雑誌編集ガイドライン」の更新、②日本医学会利益相反委員会活動報告、③日本医学会連合研究倫理委員会活動報告、④改訂「提言」案についてであった。

第 20 回委員会を、平成 29 年 12 月 7 日に開催した。主な議題は、①「第 4 回研究倫理教育研修会」、② APAME (アジア太平洋医学雑誌編

集者会議) 2017 報告、③ Journal of Human Genetics 掲載論文に関する質問書、④「日本医学会 医学雑誌編集ガイドライン」の更新、⑤ WHO-ICTRP の data set の動向、⑥ WPRIM (WHO 西太平洋地域版 Index Medicus) と WPRIMJ (同・国内委員会) の活動、⑦日本医学会利益相反委員会活動報告についてであった。

第 21 回委員会を、平成 30 年 2 月 21 日に開催した。主な議題は、①「第 4 回研究倫理教育研修会」、② Journal of Human Genetics 掲載論文に関する質問書、③「日本医学会 医学雑誌編集ガイドライン」の更新、④日本医学雑誌編集者会議 (JAMJE) 総会・シンポジウムの開催、⑤日本医学会利益相反委員会活動報告、⑥ WHO 西太平洋地域医学情報データベース国内委員会 (WPRIMJ) の位置づけ、⑦ WHO International Clinical Trials Registry Platform (WHO ICTRP) の data set の日本語版についてであった。

### ◆医学賞・医学研究奨励賞

平成 30 年度日本医師会医学賞・医学研究奨励賞 (旧医学研究助成費) の推薦依頼を日本医師会雑誌の 5 月号に公示。受付期間は、5 月 15 日 (火)~7 月 3 日 (火)。推薦書・要項等は、公示日より日本医師会ホームページ (<http://www.med.or.jp/>) からダウンロードできる。

### ◆日本医学会への加盟申請

平成 30 年度の日本医学会への新規加盟申請は、5 月 15 日 (火) に公示 (日本医師会雑誌等) し、7 月 31 日 (火) に締め切る。申請書は、公示日より本会ホームページ (<http://jams.med.or.jp/>) からダウンロードできる。

### ◆移植関係学会合同委員会

平成 4 年 4 月に発足した本委員会は厚労省、日本医師会、関係学会で構成されており、世話人を日本医学会長が務めている。

# 日本医学会だより

JAMS News

2018年10月 No.60  
日本医学会

## ◆日本医学会公開フォーラム

日本医師会・日本医学会合同公開フォーラムは「HPVワクチンについて考える」をテーマに、平成30年10月13日（土）13:00~17:20、日本医師会館大講堂において開催。後援：NHK。

組織委員は、藤井知行（東京大学・産婦人科学）、高橋孝雄（慶應義塾大学・小児科学）の各氏。参加申し込みは郵便はがき、FAX、本会ホームページ（<http://jams.med.or.jp/>）にて受付。参加費無料。詳細は日本医学会ホームページに掲載。

## ◆日本医学会シンポジウム

第154回シンポジウムは「AIと医療の現状と課題」をテーマに、平成31年1月16日（水）13:00~17:05、日本医師会館大講堂において開催する。

組織委員は、大江和彦（東京大学・医療情報学）、竹内 勤（慶應義塾大学・リウマチ・膠原病内科学）の各氏。参加申し込みは郵便はがき、FAX、本会ホームページ（<http://jams.med.or.jp/>）にて受付中。参加費無料。詳細は日本医学会ホームページに掲載中。

## ◆医学賞・医学研究奨励賞の決定

選考委員会を平成30年8月31日（金）に開催し、平成30年度の日本医師会医学賞・医学研究奨励賞の授賞が決定した。

日本医師会医学賞・医学研究奨励賞選考委員会委員ならびに特例委員が、今年度の推薦数：

医学賞 24、奨励賞 31 を審査した。

選考の結果、11月1日（木）の日本医師会設立記念医学大会において、今年度の医学賞は3名、奨励賞は15名に授与される。

選考の結果は下記のとおり。

〈日本医師会医学賞〉

- ・脳機能を支えるシナプスの機能発達、可塑性および伝達修飾の研究/狩野方伸（東大・神経生理学）
- ・大規模コホート研究の推進と日本人のエビデンスに基づいたがん予防法の提言/津金昌一郎（国立がん研究センター社会と健康研究センター）
- ・緩徐進行1型糖尿病（SPIDDM）の成因、診断、および発症・進展阻止治療に関する研究/小林哲郎（冲中記念成人病研究所）

〈日本医師会医学研究奨励賞〉

- ・慢性炎症における肺線維化機構の解明と病態制御基盤の構築/平原 潔（千葉大・免疫発生学）
- ・臓器間連携を介した新規心臓恒常性維持機構の解明による新規診断・治療法の開発/藤生克仁（東大・先進循環器病学）
- ・健康長寿を目指したアンドロゲン受容体を介する遺伝子発現制御機構の統合的同定解析/高山賢一（東京都健康長寿医療センター研究所）
- ・ヒト新生児が有する脳傷害後のニューロン移動メカニズムの解明と再生促進の実現化/神農英雄（名市大・新生児・小児医学）
- ・大腸癌転移における炎症性サイトカインの機

- 能解析/谷口浩二（慶大・微生物学・免疫学）
- ・シングルセルRNAseqを用いた角膜移植における制御性T細胞の可塑性の解析/猪俣武範（順天堂大・眼科学）
- ・行動科学理論に基づく情報通信技術を活用した健康格差是正手法の開発と効果検証/近藤尚己（東大・健康教育・社会学）
- ・災害医療情報の国内・国際標準化/久保達彦（産業医大産業生態科学研究所・環境疫学）
- ・光曝露の健康影響：大規模前向きコホート研究による検証/大林賢史（奈良県立医大・疫学・予防医学）
- ・細胞死からみたアレルギー性気道炎症の新しい評価法の確立/植木重治（秋田大・総合診療・検査診断学）
- ・治療難治性癌に対する脂質メディエーター標的治療の可能性の探索/永橋昌幸（新潟大・消化器外科学）
- ・「希少がん」骨軟部腫瘍のがんプレジジョンメディシンデータベースに基づいた新規治療法開発/末原義之（順天堂大・整形外科学）
- ・嗅上皮障害後の修復過程におけるインスリンの役割の解明/菊田 周（東大・耳鼻咽喉科学）
- ・初期胚発生の遺伝子発現機構を介した胚性の不妊症の病態解明と再生医療の開発/山田満稔（慶大・産婦人科学）
- ・皮膚線維化疾患におけるγRNAの関与の研究/神人正寿（和歌山医大・皮膚科学）

## ◆「遺伝子・健康・社会」検討委員会

第17回委員会を平成30年10月5日（金）に開催した。

## ◆平成30年度日本医学会分科会用語委員会

本年度は平成30年12月18日（火）14：00～16：00、日本医師会館大講堂にて開催予定である。

## ◆日本医学雑誌編集者会議（JAMJE） ならびに日本医学会分科会利益相反 会議合同シンポジウム

第2回日本医学雑誌編集者会議（JAMJE）ならびに日本医学会分科会利益相反会議合同シンポジウムを平成30年11月6日（火）13：00～16：35、日本医師会館大講堂にて開催する。シンポジウムテーマは「医学研究公表のためのコンプライアンス」で、総会に引き続き、6名の演者による講演と総合討論が行われる予定である。

## ◆日本医学会公開シンポジウム「適切な遺伝学用語のあり方」

平成30年12月11日（火）13：00～17：00、日本医師会館大講堂にて標記シンポジウムの開催を予定している。昨今の分子遺伝学研究の飛躍的な発展により、ゲノム医療においても多くの遺伝学用語が用いられている。医学用語管理委員会では適切な医学用語について常に検討をしているが、遺伝学用語についてはさまざまな分野が関連していることから、平成29年12月、委員会の下に「遺伝学用語改訂に関するワーキンググループ」を立ち上げ、遺伝学用語のあり方について検討を重ねてきた。

今回のシンポジウムは公開シンポジウムとして「優性」「劣性」という2つの用語に絞って検討する。分科会、国語学・教育学の分野、マスメディア、患者関係者の方々を演者に招き、適切な用語に意見集約することを目的としている。

## ◆日本医学会定例評議員会

第86回日本医学会定例評議員会を平成31年2月22日（金）14：00～16：00、日本医師会館小講堂にて開催予定。主な議題は1. 平成30年度年次報告、2. 平成31年度事業計画、3. 日本医学会新規加盟学会の件、4. その他である。

## ゲノム編集技術を用いたヒト受精胚による児の誕生に関する報道について

公益社団法人 日本医師会  
会長 横倉 義武  
日本医学会  
会長 門田 守人

香港で開催された第二回ヒトゲノム編集に関する国際サミットにおいて、中国の南方科技大学の賀建奎副教授が、H I V（いわゆる「エイズウイルス」を言う）への感染を抑止するために、ゲノム編集技術を用いた受精胚を使い、双子の女児を誕生させたとの報道がなされました。

実際に誕生したのか、その真偽は現時点では不明ですが、日本医師会及び日本医学会は、本件に対して極めて重大な懸念を表明すると共に、今後、同様な非倫理的行為が行われることのないよう、こうした研究や医療に携わるすべての者に対して強く要請いたします。

我が国において、ヒト受精胚は「人の尊厳」という社会の基本的価値を維持するために特に尊重されるべき存在であり、かかる意味で「人の生命の萌芽」として位置付けられています。

今回の行為は、産まれてきた女児らの身体的、精神的、社会的な安寧を踏み躪るものであり、この考え方に照らすまでもなく、人の尊厳を無視し、生命を軽視するものであり、国際的な倫理規範から見ても常軌を逸したものであります。

また、H I Vに関しては、他にも感染を防ぐ方法があることから、本行為における医学的必要性や妥当性はなく、技術的に確立していないゲノム編集をヒト受精胚に適用することは、医学・技術的な安全面からも大きな問題があります。

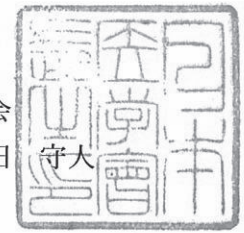
さらに、生殖細胞系のゲノム編集の影響は後の世代にまで影響が及ぶことから、人類という種に対する影響も極めて不透明であり、無責任極まりない行為であります。

科学技術の進展は、疾病の予防や治療等に大きな貢献を果たすものと、多くの期待が寄せられることから、ヒト受精胚へのゲノム編集技術等を用いる研究等の適切な在り方やそのルールの構築について、日本医師会及び日本医学会としても、積極的に議論に参画していくなかで、そうした期待に応えていきたいと考えております。

このような非倫理的行為が今後二度と行われることのないよう、より一層注視してまいります。

日本医学会分科会 理事長・会長 殿

日本医学会  
会長 門田



### 「母体血を用いた新しい出生前遺伝学的検査 (NIPT)」指針の遵守についての依頼

母体血を用いた新しい出生前遺伝学的検査 (NIPT) について、日本産科婦人科学会では、1. 妊婦が十分な認識を持たずに検査が行われる可能性があること、2. 検査結果の意義について妊婦が誤解する可能性のあること、3. 胎児の疾患の発見を目的としたマススクリーニング検査として行われる可能性のあること、等から、十分な遺伝カウンセリングを実施することができると認定・登録された施設でのみ実施できることを骨子とした「母体血を用いた新しい出生前遺伝学的検査に関する指針」<sup>1)</sup>を策定し、2013年3月9日に公表しました。NIPTは産婦人科領域にとどまらないことから、同日(3月9日)、日本医師会、日本医学会、日本産科婦人科学会、日本産婦人科医会および日本人類遺伝学会は、「母体血を用いた新しい出生前遺伝学的検査」について、関係者は日本産科婦人科学会による同指針を遵守すべきであるという共同声明<sup>2)</sup>を公表し、NIPTを実施する施設の認定・登録を日本医学会臨床部会運営委員会「遺伝子・健康・社会」検討委員会の下に設置する「母体血を用いた出生前遺伝学的検査」施設認定・登録部会で行うこととしました。

これを受け、厚生労働省も2013年3月12日の閣議後記者会見で田村憲久厚生労働大臣(当時)から趣旨説明と周知依頼が寄せられ、また、2013年3月13日には同省の雇用均等・児童家庭局母子保健課から「『母体血を用いた新しい出生前遺伝学的検査』の指針等について(周知依頼)」(雇児母発0313第1号)<sup>3)</sup>が全国の都道府県・政令指定都市・中核都市の母子保健主管部(局)長宛、および全国関係機関に宛て発出されています。平成30年12月現在、認定された全国92施設においてNIPTが実施されています<sup>4)</sup>。

しかしながら、法的規制がなく、採血のみで実施できることから、妊婦を対象とする検査であるにもかかわらず、産婦人科を専門としていない医師により、日本産科婦人科学会の指針、関連5団体の共同声明、および厚生労働省の通知を無視する形でNIPTが実施されている実態が判明し、またこれらの無認可施設において妊婦が不利益を被っている事例の存在も報告されるに至っています。

日本医学会としては、法的規制がない中、アカデミアの責任として、医の倫理に基づき、日本医学会に加盟する全分科会(学会)に対し、下記の点について各学会員へ向け周知されるよう御依頼申し上げます。

### 記

「母体血を用いた出生前遺伝学的検査 (NIPT)」には倫理的に考慮されるべき点があり、高度な専門性が要求され、社会的影響も大きいことから、認定・登録された施設においてのみ実施されるべきであり、「母体血を用いた出生前遺伝学的検査」施設認定・登録部会での認定を受けずに当該検査を実施している医療機関や医療従事者、また受諾して検査を請け負っている検査機関や仲介業者等これにかかわる全ての関係者は、いずれも直ちに検査の受諾及び実施をはじめとする全ての関係業務を中止すべきである。

## 参考資料

- 1) 「母体血を用いた新しい出生前遺伝学的検査に関する指針」  
[http://www.jsog.or.jp/news/pdf/guidelineForNIPT\\_20130309.pdf](http://www.jsog.or.jp/news/pdf/guidelineForNIPT_20130309.pdf)
- 2) 「母体血を用いた新しい出生前遺伝学的検査」についての共同声明  
[http://jams.med.or.jp/rinshobukai\\_ghs/statement.pdf](http://jams.med.or.jp/rinshobukai_ghs/statement.pdf)
- 3) 『母体血を用いた新しい出生前遺伝学的検査』の指針等について（周知依頼）  
[https://www.mhlw.go.jp/web/t\\_doc?dataId=00tb9274&dataType=1&pageNo=1](https://www.mhlw.go.jp/web/t_doc?dataId=00tb9274&dataType=1&pageNo=1)
- 4) 施設一覧  
[http://jams.med.or.jp/rinshobukai\\_ghs/facilities.html](http://jams.med.or.jp/rinshobukai_ghs/facilities.html)